

漢方薬の薬理作用
獨協医大神奈川総合臨床懇話会
平成30年1月

緒方 博丸
高台病院



●利益相反はありません

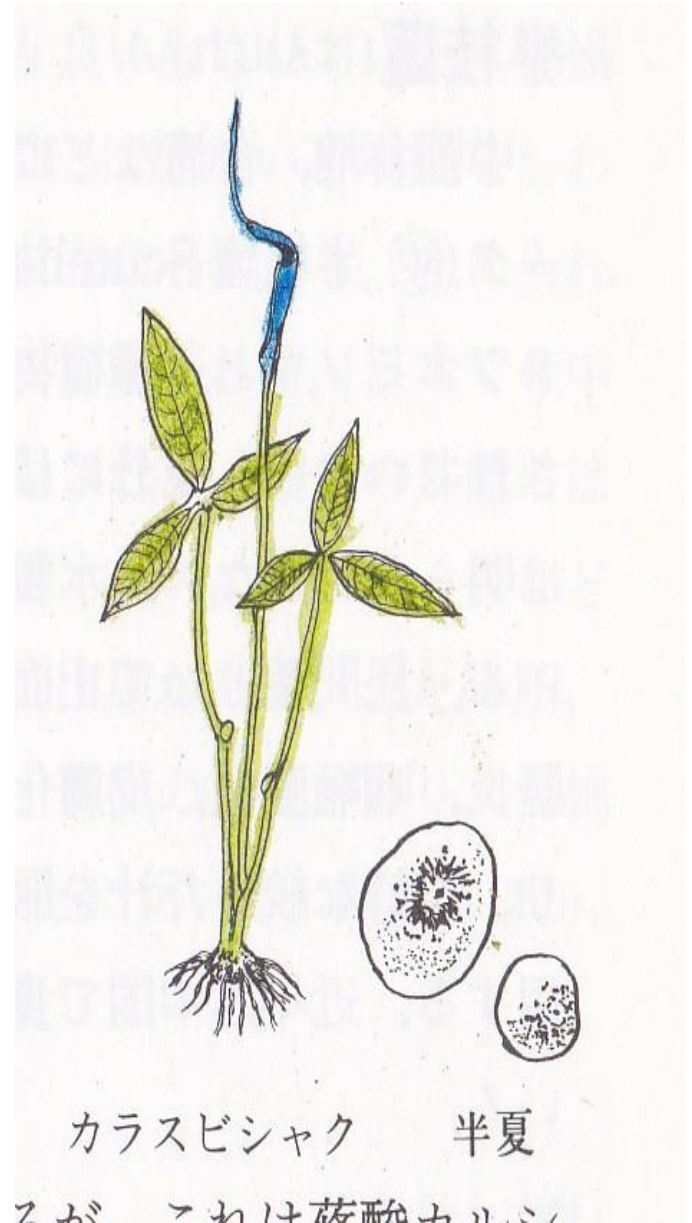
半夏厚朴湯

喉つまり感

不安神経症、しわがれ声、

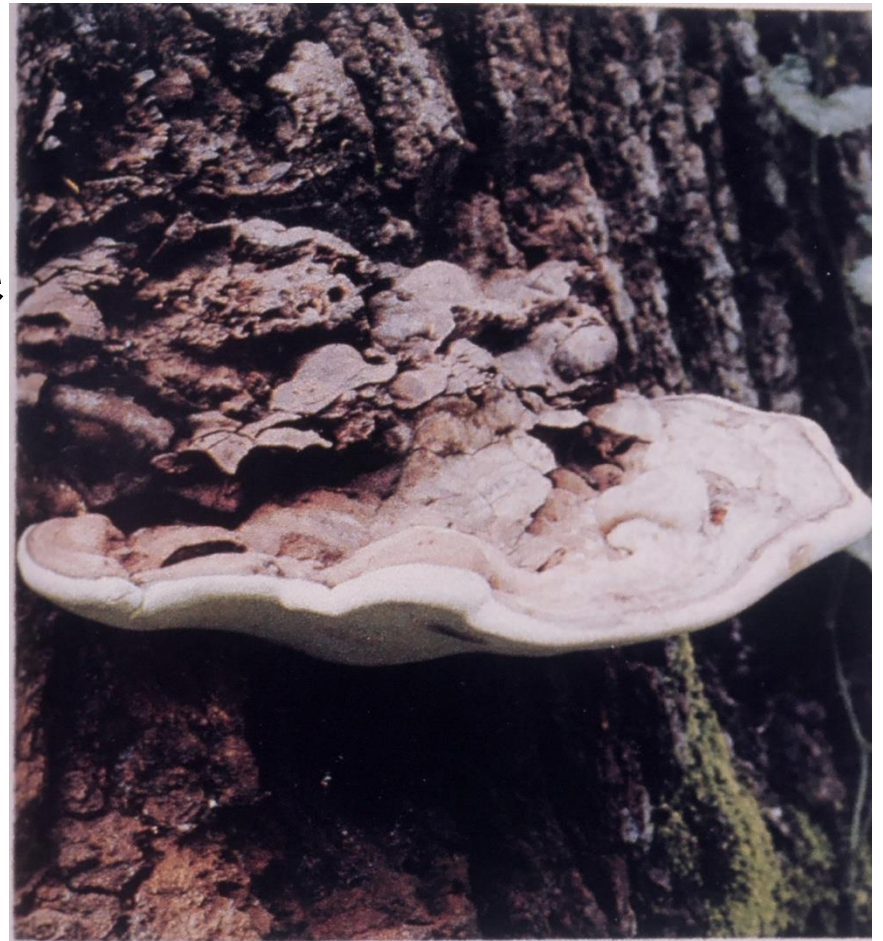
半夏

- 夏の半ばに花が咲くので半夏という。サトイモ科
- 製半夏は制吐作用、
- 生半夏は催吐作用、鎮静 眼圧下降。



茯苓

- サルの腰掛け科の菌類には抗癌作用がある。カワラタケの熱水抽出物はクレスチンで癌免疫療法薬として使われている。一般に1日20gを煎じて服用する。利水作用がある。



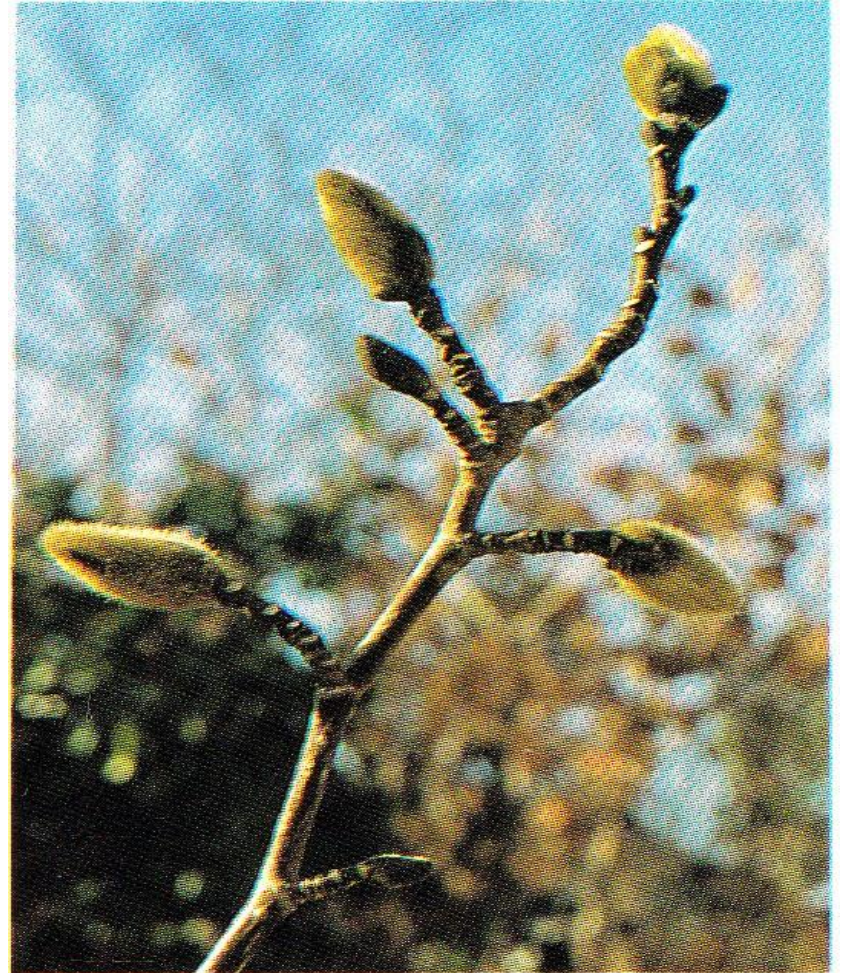
厚朴

- モクレンの花、幹、根の皮。抗菌作用あり。赤痢菌、大腸菌、チフス菌に対して強い抗菌作用(石炭酸)。黄色ぶどう状球菌に対しては黄連、黄芩よりもつよい。
- 鎮痙、気管支平滑筋に作用して弛緩作用。NOを発生させ血管平滑筋細胞内にcGMPを活性化させて、血管を弛緩させる。またCaイオンchannelに作用してCaの流入を阻止して血管の収縮を抑えて血管を弛緩させる。



厚朴の蕾の薬理作用

- 乾燥した蕾を粉末にしてのむ。
- 鎮痛、抗痙攣、筋弛緩、curare様作用
- 通便、整腸、下痢、消化不良に良い。
- 辛夷製剤を鼻に滴下すると分泌物が減少する。
(鼻つまり、頭痛、副鼻腔炎)



蘇葉

- シソの葉、紫の色はアントシアニン色素。梅のクエン酸で赤くなる。
- 抗菌、下熱、鎮静、発汗、瀉下、清熱。



生姜

辛味成分にショウガオール、ジンゲロールを含み

アドレノメジュリンを介して
腸管の血流を増す。

体を温める。

他に解熱、鎮痛、鎮咳、鎮吐



アナフィラキシーの原因と治療

- アナフィラキシーで肥満細胞からHistaminが出る。
- Histaminにより細気管支収縮が起こり、呼吸困難と細動脈の拡張で血圧低下が起こる。
- 呼吸困難と血圧低下で酸素不足→Shock状態→死亡。
- (治療)
- 1. 少量のEpinephrinの筋注、(成人0.3mg,エピペン、小児0.15mg.)
- 2. 酸素
- 3. Steroid静注

Epinephrinの作用

- $\alpha 1 \cdot \alpha 2$ 作用:末梢血管収縮。
- $\beta 1$ 作用:心筋収縮力増強、心拍数増加
- $\beta 2$ 作用:気管支平滑筋の弛緩による拡張、
- :腎血管拡張。Mediatorの遊離を抑制。
- 少量のEpinephrinは $\beta 2 > \beta 1$
- 少量のEpinephrinは β 作用 $>$ α -作用
- (使用方法)
- 成人:0.3mg10分毎に大腿部皮下注又はエピペン筋注、
- 小児は0.01mg/kg, 又は0.15mg筋注。
- 又は100mlの生食水にEpinephrin 1mg(1amp)入れて
- micro dripperで1秒1滴つつ落とし、後10秒に1滴に直す。

終わり